

平成27年度国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会第1回事業部会議事要旨

日時：平成27年5月19日（火）13:30～15:30

場所：美瑛町図書館 会議室

運営委員出席者：笠井委員長，大島部会長，植田委員，浪岡委員，鈴木委員（浜田委員代理）

計5名

欠席者：山根委員，永澤委員，目黒委員，板東委員

計4名

大雪青少年交流の家（事務局）

出席者：阿部所長，穴澤次長，松浦事業推進室長，村澤企画指導専門職，柴田企画指導専門職，西尾事業推進室主任

計6名

【●事務局 ○部会長 □委員(長)】

●開会宣言

会議時間・資料確認，欠席委員の報告，施設業務運営委員及び事業部会担当職員の自己紹介。

○以下部会長による進行

【議題1について】

○部会長

議題1「平成27年度事業方針」について説明してほしい。

●事務局

機構本部の教育事業部が示した「平成27年度事業方針」についてポイントをいくつか説明。その事業方針に基づいて作成した事業計画について，施設業務運営委員が協働参画する予定の3つの事業について審議いただきたい旨を説明。

○部会長

今年度の事業方針と事業計画についての説明があった。具体的な成果をあげるためにも，

各委員が積極的に協働していきたい。

### 【議題2について】

#### ○部会長

議題2「ゆーすフェスタ2015」について説明してほしい。

#### ●事務局

本年度の事業部会として、「ゆーすフェスタ2015」「冬のレクススポーツ祭典」及び文科省委託事業「ユースオブワールド2015」に取り組んでいきたい。最初に「ゆーすフェスタ2015」について担当者から説明する。

#### ●事務局

昨年度、実施後の職員アンケートの結果と委員からいただいた評価をふまえ、開催要項（案）を作成。昨年度新たに取り入れた次の2点について大きな成果があったことから、今年度も継続実施したい旨を説明。

1. 「前夜祭」を実施した結果、協力団体同士の相互交流とモチベーション向上につながった。今年度も実施したい。

2. 体育館のパフォーマンス時には他のブースを一時閉鎖し集客を図った結果、出演団体の意欲が高まった上、来場者が一体となりフェスタ全体が盛り上がった。

今年度新たに取り組む次の2点について提案。

1. 物販部門の充実を図りたい。近隣の産業高校の協力を得て、農産物や加工品等の販売をする。高校にとっては日頃の学習成果を発信する機会。明年の交流の家開所50周年記念事業として、道内の産業高校のつどいを検討。

2. 企業ブースにおいて協賛・賛同企業紹介ブースを設けたい。旭川商工会議所の協力を得ながら、近隣企業の職員にも足を運んでいただき、フェスタを実際に見ていただく機会とする。広報部会が取り組む企業向けパッケージプランの利用促進を図る。また、開所50周年に向けた寄附金確保の方策とする。

#### ○部会長

議題2「ゆーすフェスタ2015」についての説明があったが、対象を親子・幼児というよりも年齢対象が高くなったように思える。

#### ●事務局

親子を対象とするコンセプトは変わらない。明年の開所50周年に向けて、日頃利用いただいている高校生や企業、青年団等の参加も視野に入れている。これら青年層について

は、交流の家が開所した当初から利用いただいている。家庭教育サポート企業として取り組んでいる企業も多い。

○部会長

年齢対象をシフトするというよりはプラスし、層を厚くすることと理解した。

□委員

美瑛高校の生徒が考えたパンが商品化され、コンビニで販売されることになった。ぜひ地元の高校にも声をかけ、物販部門の充実を図っていただきたい。

□委員

高校生など参加者の年齢層を昨年度よりもプラスして物販部門の充実を図るということでも夢が膨らんでくる。口コミによる広報も期待できるのではないだろうか。

○部会長

今年度の開催に向けて、コンセプトの確認や具体の取組事例の意見をいただいた。事務局はこれらを参考に準備を進めてほしい。

【議題3について】

○部会長

議題3の「大雪冬のレクスポーツ祭典」について説明いただきたい。

●事務局

「大雪冬のレクスポーツ祭典」は、「ゆーすフェスタ」の冬バージョンともいえる。今年度は、2月21日に開催する。

昨年度、新たに取り組んだ点として、家族を対象とした宿泊プランを設けた。前日の夜に天体観測のプログラムを入れ、家族でゆっくりと団らんしていただきながら過ごしていただけるように企画した。定員を超える申込があり、今年度は宿泊部屋を確保し、定員を増やして募集を行いたいと考えている。

今年度は、「新しい公共」型の管理運営が本格実施となることから、施設業務運営委員の皆様ノウハウとネットワークを活用した体験ブースの提供を行いたいと考えている。協働参画を予定している委員の皆様の中には、メディア関係をはじめ、アウトドアスポーツや学校教育関係など幅広い分野でご活躍されている。開催日まで日数がまだあるが、委員の皆様が協力や参画できる内容や具体的な体験ブースなど意見を伺いたい。

○部会長

ただ今、事務局から説明があった。昨年度の評価の内容がプログラムに反映されている。委員から御意見をいただきたい。

□委員

天体観測が楽しそうに思えるが、交流の家には望遠鏡はあるのか。

●事務局

天体観測ができる大きな望遠鏡を所有している。交流の家周辺には建物等が何もなかっため、星がきれいに見える。昨年度は天候にも恵まれ、参加者から非常に好評であった。

□委員

プログラムのネーミングが工夫されている。2年前に運営に携わった「もちつき体験」は、「モチ」ツキリンピック」と子供たちが興味を抱きそうな名前になっている。屋外・屋内ともにメニューが豊富で、プログラムについては十分のような気がする。

○部会長

2月の冬の開催でまだ先であることから、具体的な内容が思いつかないかもしれない。開催日まで日数があるので、次の部会の際に再度、意見をいただきたい。

【議題4について】

○部会長

議題4の「ユース オブ ワールド 2015」について説明いただきたい。

●事務局

「ユースオブワールド2015」については、3カ年計画の2年目の開催として、今年度も文科省委託事業に応募し、採択の内定をいただいたところである。

今年度は、世界ジャンボリー大会が日本で開催されることから各施設の配分額が昨年度より減額となり、大雪としては、昨年度、夏と冬の2回実施していた国際交流事業を1回に減らし、その分、3泊4日の日程に増やした。

対象国は、東アジアの中国・台湾・モンゴル・韓国。日本人のリーダー育成対象者は高校生・大学生・勤労青年とした。

日程は、8月12日～15日の3泊4日。大雪を会場に実施。参加者とは別に、日本の青年8名による実行委員会を組織し、日本人のグローバル人材を養成する。6月、8月、9月の計3回、実行委員会を計画し、事業の企画や運営、事業後の報告書作成などを通し

てリーダーとしての資質を高めたい。

一方、参加者は、日本人高校生・大学生10名、東アジア出身の留学生10名の計20名。広く公募し、申込書には語学力がわかる資格取得欄や志望動機を記入する欄を設け、外国語でディスカッションが可能な語学力やモチベーションの高い学生を採用したいと考えている。

北海道に根付くアイヌ文化が大切にする「自然や他者との共生」をコンセプトに、北海道独自の歴史や伝統文化・自然を活かした体験交流をとおして、豊かな心や共生の心を育てていきたい。

1日目は、レクチャーや日本人参加者によるプレゼンテーション、グループディスカッション等を計画。

2日目は、富良野市と美瑛町のフィールドワークを計画。交流の家の周辺地域が持続可能な開発のためにどのような取組をしているのか、参加者がグループ別に、フィールド調査し、国境を越えたグローバルな視野から環境問題等について考えるプログラムを企画。

3日目は、トレッキングとグローバルアクションプランとしてテーマ別フィールドワークや事前学習等をとおして、自然環境の保全活動への取組を計画。具体例として、東アジアの観光客に人気のある観光名所周辺のゴミ拾いや外国人観光客への環境保護啓発運動を美瑛町の自治体や観光協会等の協力を得て実施したいと考えている。取組方法等については、企画委員の皆さんからご意見をいただいた上で、実行委員会で協議したい。

○部会長

ただ今、事務局から説明があった。御質問や御意見をいただきたい。

□委員

昨年はアイヌ民族の理解ができる内容のものがプログラムの中に入っていたが、今年度については、アイヌ文化とはどのような結びつきはあるのか。

●事務局

昨年度は日高での開催だったためアイヌ文化博物館に行くことがあったが、今年度はアイヌ文化についてはレクチャーやプログラムの中で参加者に理解していただく必要がある。その際にアイヌ文化振興研究機構等の協力も得てアイヌ文化について触れたい。

○部会長

アイヌ文化とプログラムのつながりについて理解できた。2020年の東京オリンピック開催に向けて、国立アイヌ文化博物館の設置が決まり、アイヌ文化を学び、広めていくことはますます重要である。

●事務局

美瑛町の「青い池」などの観光名所については交通渋滞やゴミ問題などが話題にあがっている。美瑛町として外国人観光客への啓発などはされているのか。

□委員

観光協会には台湾出身の職員がいる。外国人観光客向けのパンフレットやポスター，多言語で書かれた交通ルールやゴミ問題の啓発チラシなどを作って配付している。観光名所の「青い池」の環境整備についても新たな取組を考えている。東アジアの留学生が参加する国際交流事業との連携も考えられる。

□委員

外国人観光客が畑に入って写真を撮影するなど，農家への被害は大きい。最近では，啓発等によりマナーはよくなってきているが，継続して啓発運動を行うとともに被害状況や対策などについて観光客へ説明する必要がある。

●事務局

フィールドワークの際に農協を訪問して取材をさせていただくなど連携の方法を検討したい。

○部会長

昨年，帯広畜産大学と北見工業大学が主たる参加対象にされていたと聞いていたが，今年はどのように考えているのか説明していただきたい。

●事務局

留学生の参加について，帯広畜産大学と北見工業大学の2大学と連携させていただいた。昨年度，他大学からの問い合わせもあり，今年は発展させる意味で，道内の各大学へ広く公募したい。

□委員

中国をはじめ留学生の出身国の国民性もあり，日本の考え方とはギャップがあると思う。ぜひ互いが理解できるようなきっかけを本事業で作っていただきたい。

●事務局

プログラムについては，3泊4日という短い期間で取り組める内容には限度がある。海外から来た青年を招いて，少しでも国際問題を考えるきっかけになればと思う。また日本の青年も同様に国際化について考えていけるようにしたい。

○部会長

今年度の開催に向けて、具体的な御意見をいただいた。事務局はこれらを参考に準備を進めてほしい。

○部会長

以上で議題を終了する。

●事務局

貴重な意見に感謝。議事録は修正の後、ホームページ上に公開予定。次回の開催は、10月の全体会議の施設業務運営委員会を予定。

●事務局

(閉会宣言)